

令和 4 年 5 月 27 日現在

機関番号：11301

研究種目：基盤研究(A)（一般）

研究期間：2017～2021

課題番号：17H00947

研究課題名（和文）地理的マルチレベル現象の解明に向けた基盤的データの構築

研究課題名（英文）Construction of fundamental data for the elucidation of multilevel geographical phenomena

研究代表者

埴淵 知哉（Hanibuchi, Tomoya）

東北大学・環境科学研究科・准教授

研究者番号：40460589

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 32,700,000円

研究成果の概要（和文）：人々の意識や行動は、その人が暮らす地域の影響を受ける。本研究では、こういった個人と地域の関係性を定量的に捉える目的で、両者の情報を併せもつ地理的マルチレベルデータを構築し、そのデータの分析および公開を行った。本調査では日本の大都市居住者3万人のデータを収集し、詳細住所情報に基づく分析から、人々の意識・行動にみられる多様な地域差や、そついった差を生み出す地域環境との関係を明らかにした。また、関連する基礎研究として、社会調査の回収率低下が地域分析に与える影響や、インターネット環境を利用した新しい調査法の有用性を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

個人の意識・行動と地域環境の関係性は様々に議論されてきたものの、それを定量的に把握するためのデータは不十分であった。本研究はこの課題を克服するため、大規模なインターネット調査を実施して統計的な分析を行うとともに、二次分析が可能ないようにデータを研究者に公開することで、個人と地域の諸関係を明らかにするためのデータ基盤を整備した。また、地図とグラフによりわかりやすく視覚化した調査結果を書籍として刊行し、専門家のみならず都市や地域に関心をもつ市民に対しても研究成果を広く発信した。

研究成果の概要（英文）：People's attitudes and behaviors are shaped by the region in which they live. In order to quantitatively understand the relationship between individuals and regions, this study constructed a multilevel geographical data that combines both types of information, conducted statistical analysis, and made the data publicly available. The study collected data on 30,000 residents of major cities in Japan, and based on detailed address information, clarified various regional differences in people's attitudes and behaviors, as well as the factors that have contributed to such regional differences. In addition, as related basic research, the impact of declining response rates in social surveys on regional analysis and the usefulness of new survey methods using the Internet environment were clarified.

研究分野：健康地理学、社会調査法

キーワード：インターネット調査 社会調査 マルチレベルデータ 大都市 国勢調査 系統的社会観察

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 1. 研究開始当初の背景

近年、健康・教育・防犯などの様々な分野で、ある現象が起こる要因を個人と地域の両面から説明する「マルチレベル研究」が注目を集めている。これは、人々の意識・行動などに対する文脈 (context) の効果を明示的に分析しようとする研究関心の潮流である。従来「個人」を研究対象としてきた多くの研究領域が、近年「環境」や「地域」への関心を高めてきた。一方、環境や地域への関心を元来強く持つ地理学においても、人と環境の相互作用を分析するために、従来の集計データではなく非集計の個票データを研究利用する動きが強まっており、個人と地域の情報を併せ持つ地理的マルチレベルデータを基盤とする学際研究への期待が高まっている状況にあった。

むろん、ある現象を個人と環境・地域の多層的な関係からとらえるという発想自体は、さほど目新しいものではない。しかし、近年の研究はこの現象を数量的に把握し、統計分析の俎上に載せた点に特徴がある。社会調査と GIS の援用による地理的マルチレベルデータ (個人と環境を同時に分析可能なデータ) の構築、またそれをういた適切な統計解析手法 (マルチレベルモデリング) の普及など、方法論的基礎が同時期に整ったことで、様々な社会的・地域的現象をマルチレベル研究の枠組みから明らかにする土台が、学際的かつ国際的に発展してきたのである。ただし、日本にはこの分析を本格的に展開しうる規模・範囲のデータが存在しないという大きな課題があった。

## 2. 研究の目的

本研究では、個人と地域の情報を併せ持つ地理的マルチレベルデータの構築・公開・分析を通じて、日本における地理的マルチレベル現象を統合的に解明することを目的とした。幅広いテーマを対象とした地理的マルチレベルデータを構築し、さらにそれを公開することができれば、多様なマルチレベル現象の統合的解明につながると考えたためである。このデータには、人々の意識・行動・属性に関する個人変数と、地理的文脈 (地域特性) を表す地域変数の両方が含まれ、それが諸現象の分布や相関、因果関係を探るために使用される。同時に、こういったデータ構築にかかわる調査法上の諸課題、具体的には社会調査や国勢調査における未回収の増加や、代替手段として期待されるインターネット調査の有用性や信頼性に関する基礎研究にも取り組み、方法論的な基礎を整備することとした。

## 3. 研究の方法

本研究の核になるのは社会調査個票データとそれに紐づく地域指標であり、インターネット調査を通じたデータ収集と、GIS 等による地理情報の処理、そして構築された地理的マルチレベルデータの統計分析が主な研究方法となる。本研究には大きく分けて、(1) 方法論的研究、(2) 予備調査の実施・分析、(3) 本調査の実施・分析およびデータ公開という三つの段階がある。第一に、社会調査の回収率低下や国勢調査の不詳率上昇といった、統計調査の精度にかかわる諸問題を取り上げ、とくにそれらが地域分析にどのような悪影響をもたらしているのかを実証的に検討することとした。第二に、大規模インターネット調査 (本調査) に向けて複数回の予備調査を実施し、様々な設問に対する回答傾向や詳細住所情報の収集に関する抵抗感、回収標本の地理的な分布密度や偏りなどについての分析を進めた。第三に、国勢調査と同時期の 2020 年 10-11 月にインターネット調査を実施し、詳細住所情報をもつ大規模個票データを収集するとともに、その集計・分析および二次分析に向けたデータの寄託・公開手続きを行った。

## 4. 研究成果

### (1) 方法論的研究

調査方法論の基礎研究として、国勢調査の未回収に起因する「不詳」の問題、とりわけその地域差およびそれがもたらす疑似的な地域差の問題について継続的に研究を進めた。「不詳」の発生は都市部に偏るとともに、市区町村という単位でのまとまりを有しており、現象の地理的側面を把握する際に意図せず疑似的な地域差や地域相関を観察してしまう可能性があること (埴淵ほか 2018, 地理学評論) 個人レベルでみると年齢および都市居住が調査票の未提出に関連する独立した要因であること (埴淵・山内 2019, E-journal GEO) 不詳率が著しく高い東京では若年層に加えて中年層でも未提出が多く全国とは異なる傾向もみられること (Hanibuchi & Yamauchi 2020, SAGE Open) 不詳率が将来さらに増加すると地域分析の結果を歪めるリスクが高くなること (山本ほか 2021, E-journal GEO), コロナ禍のもと実施された 2020 年調査では農村部においても未回収の増加が相対的に多くなり、未回収の増加が地域差の拡大と必ずしも連動しなかった可能性があること (山本ほか 2021, 日本地理学会 2021 年春季学術大会) などを明らかにして

きた。

このような厳しい調査環境のなか、社会調査により独自の個票データを集める方法としては、インターネット調査（登録モニターに対する Web 形式のアンケート）が注目される。本研究では、本調査に向けて同手法の有用性についても基礎研究を進めた。標本の代表性や回答精度への懸念から学術調査に対しては否定的な意見が 2000 年代には多くみられたものの、インターネット調査の廉価性や迅速性は、大規模（=地理的に高密度な）標本の収集や突発的な社会変化（例えばコロナ禍）に対応した調査の実施を可能とすること（埴淵ほか 2020, 地理学評論、足立ほか 2021, 運動疫学研究、Hanibuchi et al. 2021, *Prev Med Rep*）また、登録モニターの分布やその回答率には地理的な偏りがあるものの、それらは地域的な分析に対して深刻な影響を与えるものではなく、したがって従来の手法による調査が困難さを増す中で学術調査においても利用に値する一つの選択肢になりうることを実証的に示した（埴淵・村中 2018、ナカニシヤ出版）。

また、地理的マルチレベルデータを構成する地域指標の拡張を意図して、街路の系統的社会観察を用いた新たな指標（例えばマイクロレベルのウォークビリティなど）の構築の可能性を探った。近年はとくに Google Street View に代表される街路景観画像を用いた仮想的な観察（Virtual audit）が急速に普及しており、日本においてもこの手法の信頼性と利用可能性を検証することは急務であった。本研究では名古屋市や東京都文京区を調査対象地域として、クラウドソーシングと組み合わせた仮想的な街路観察の信頼性の検証（Hanibuchi et al. 2019, *Health & Place*）、作成された街路景観に基づく指標を社会調査個票に紐づけたマルチレベル分析（埴淵ほか 2020, 地理学評論）、機械学習による景観画像のセグメンテーションと歩きやすさ得点の予測モデル作成（Nagata et al. 2020, *Health & Place*）を行い、日本の街路においてもこの手法を応用した分析が有効であることを確認した。

## （2）予備調査の実施・分析

本研究では、2018・2019 年にそれぞれ全国・東京を対象としたインターネット調査を実施し、方法論的研究の根拠となるデータの収集（国勢調査に対する意識や回答状況、住所情報の回答抵抗感など）および本調査の設計に必要な様々な知見（回答モニターの居住地の偏りや各種設問に対する回答分布など）の獲得を試みた。得られたデータは本調査の設計に対する基礎資料となっただけでなく、個々の分析により国勢調査の研究（埴淵・山内 2019, *E-journal GEO*、Hanibuchi & Yamauchi 2020, *SAGE Open*）や地理的マルチレベルデータの有用性に関する研究（埴淵ほか 2020, 地理学評論）の成果として利用された。特に 2019 年の予備調査では、東京都心部を対象に登録モニターに対する全数調査を試行し、同調査法の課題とされる地理的な密度の低さが大都市ではどの程度克服できるのか、また個人属性の割付をしない場合に回収標本にどのような偏りが生じうるのかを確認し、その結果を踏まえて本調査では 21 大都市に調査資源を重点配分する形式が採用されることとなった。

なお、予備調査とはやや位置付けが異なるものの、本調査の前後に二つの補完的なインターネット調査を実施した。一つは、新型コロナウイルス感染症の流行下において人々の意識・行動がどのような影響を受けたのかを迅速に把握する目的で、2020 年 5 月に調査が行われた。これは当初の研究計画には無いものであったが、対面接触を要しないインターネット調査の利点を最大限生かして、コロナ禍における外出行動の変化（Hanibuchi et al. 2021, *Prev Med Rep*、Nagata et al. 2021, *Prev Med Rep*）やインターネットによる各種活動の代替効果（Yabe et al. 2021, *Transp Res Interdiscip Perspect*）を明らかにした。同調査ではコロナ禍初期における行動の変化を回顧的に評価すると同時に、iPhone に記録されている歩数履歴を画像から取得するという新たな方法の開発にも取り組んだ（足立ほか 2021, 運動疫学研究）。もう一つは 2021 年 1-2 月に仙台都市圏を対象として実施されたインターネット調査であり、調査票の多くの部分は本調査と共通しつつ、移動や交通行動により重点が置かれた。同データにより、全国的な分析に加えて、局所的により詳細な地理的マルチレベル分析を実施することで、認知的なアクセシビリティ感覚（Tanimoto & Hanibuchi 2021, *Transp Res Interdiscip Perspect*）や各種の居住満足度指標（清水ほか、地理情報システム学会研究発表大会）と客観的な近隣環境との多面的な関連性を明らかにした。

## （3）本調査の実施・分析

2020 年 10-11 月にかけて国内の 21 大都市（東京特別区および政令指定都市）を対象とした大規模インターネット調査を行い、それと比較可能な非大都市対象のインターネット調査と全国郵送調査も合わせて実施した。結果、合計で 34,000 名以上から回答データを収集した（「都市的ライフスタイルの選好に関する地理的社会調査（GULP）」）。その大半は番地・号レベルの詳細住所情報を含むため、様々な空間分析や地域指標との結合が可能である。個票データは国勢調査の町丁・字等や郵便番号界と紐づけられており、多様な地域指標との関連を容易に分析できる状態にある。同調査の設問には住民の地理的な意識や行動、社会生活全般における多様な項目が含まれるため、様々な分野の研究に利用可能な汎用性の高いデータセットとなっている。

これまでに、このようにして構築された本調査データの基礎的な集計・分析を進め、その成果を発表するとともに、個人情報削除した個票データをデータアーカイブに寄託した。まず本調査データの全体を俯瞰する基礎的な集計・地図化をおこない、その主要な結果および調査方法等の詳細（調査の目的から発展的な分析の方向性までを含む）をまとめて書籍として刊行した（埴淵 2022, 古今書院）。同書では、多数の調査項目について、年齢や職業といった個人属性別、21

大都市別、そして各都市内の区別に集計した結果を、グラフと地図により視覚的に示した。これにより、大都市居住者の様々な意識や行動において大きな地域差が示されたことから、より詳細な個別的研究の必要性を示唆する内容となっている。本調査の実施が研究期間5年間のうち4年目後半であったため本格的な論文文化は今後になるものの、個別の研究としては、出身地への還流移動に対する意思（横山ほか 2021, 東北地理学会秋季学術大会）、インターネット利用による食品購入（芥川ほか 2022, 日本地理学会 2022 年春季学術大会）、国勢調査への回答行動（埴淵ほか 2021, 東北地理学会春季学術大会、山本ほか 2021, 日本地理学会 2021 年春季学術大会）、また日常的な歩行時間などに関する分析が先行的に進められている。いずれも、大都市住民の様々な意識・行動が、個人特性だけでなく居住地や出身地の地域特性によって様々に異なるということを示している。そして本調査の個票データはデータアーカイブ（東京大学 SSJDA）に寄託され、2022 年夏の予定で研究者に広く公開される。したがって今後は、公開データの二次分析利用者も含めて広く分析が進展していくことが期待される。

以上のように、本研究は概ね当初の研究計画に沿って順調に進み、地理的マルチレベルデータの構築・公開・分析という目的を一定程度達成したと考えられる。研究期間中にコロナ禍が生じたことで様々な影響が懸念されたものの、本研究の特徴であるインターネット調査を活用して急遽追加実施したコロナ禍の意識・行動変容調査は、予期していなかった新たな知見（スマートフォンを利用した遡及的調査法の有用性など）にも結び付いた。他方で、本調査の実施が5年の研究期間のうち4年目の後半であり、また2020年国勢調査の小地域データの公開が期間内には完了しなかったことなどから、個別的分析の深化およびそれらの知見の統合に関しては今後引き続き取り組むべき重要課題として残されている。また、本調査データはコロナ禍中の大都市住民の意識と行動を記録した貴重な横断データであり、将来的には追跡調査によって縦断データを構築することでさらなる価値をもたらすことが見込まれる。これらについては本研究機関の終了後も取り組みを継続したい。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計44件（うち査読付論文 37件 / うち国際共著 13件 / うちオープンアクセス 36件）

1. 著者名 Koohsari Mohammad Javad, McCormack Gavin R., Nakaya Tomoki, Shibata Ai, Ishii Kaori, Lin Chien-Yu, Hanibuchi Tomoya, Yasunaga Akitomo, Oka Koichiro	4. 巻 211
2. 論文標題 Perceived workplace layout design and work-related physical activity and sitting time	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Building and Environment	6. 最初と最後の頁 108739 ~ 108739
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.buildenv.2021.108739	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する
1. 著者名 Tanimoto Ryo, Hanibuchi Tomoya	4. 巻 12
2. 論文標題 Associations between the sense of accessibility, accessibility to specific destinations, and personal factors: A cross-sectional study in Sendai, Japan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Transportation Research Interdisciplinary Perspectives	6. 最初と最後の頁 100491 ~ 100491
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.trip.2021.100491	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Nagata Shohei, Adachi Hiroki M., Hanibuchi Tomoya, Amagasa Shiho, Inoue Shigeru, Nakaya Tomoki	4. 巻 24
2. 論文標題 Relationships among changes in walking and sedentary behaviors, individual attributes, changes in work situation, and anxiety during the COVID-19 pandemic in Japan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Preventive Medicine Reports	6. 最初と最後の頁 101640 ~ 101640
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.pmedr.2021.101640	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Koohsari Mohammad Javad, Nakaya Tomoki, McCormack Gavin R., Shibata Ai, Ishii Kaori, Yasunaga Akitomo, Hanibuchi Tomoya, Oka Koichiro	4. 巻 214
2. 論文標題 Traditional and novel walkable built environment metrics and social capital	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Landscape and Urban Planning	6. 最初と最後の頁 104184 ~ 104184
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.landurbplan.2021.104184	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Hanibuchi Tomoya, Nakaya Tomoki, Kitajima Tsuyoshi, Yatsuya Hiroshi	4. 巻 23
2. 論文標題 Associations of insomnia with noise annoyance and neighborhood environments: A nationwide cross-sectional study in Japan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Preventive Medicine Reports	6. 最初と最後の頁 101416 ~ 101416
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.pmedr.2021.101416	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yabe Naoto, Hanibuchi Tomoya, Adachi Hiroki M., Nagata Shohei, Nakaya Tomoki	4. 巻 10
2. 論文標題 Relationship between Internet use and out-of-home activities during the first wave of the COVID-19 outbreak in Japan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Transportation Research Interdisciplinary Perspectives	6. 最初と最後の頁 100343 ~ 100343
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.trip.2021.100343	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Okubo Ryo, Yoshioka Takashi, Nakaya Tomoki, Hanibuchi Tomoya, Okano Hiroki, Ikezawa Satoru, Tsuno Kanami, Murayama Hiroshi, Tabuchi Takahiro	4. 巻 287
2. 論文標題 Urbanization level and neighborhood deprivation, not COVID-19 case numbers by residence area, are associated with severe psychological distress and new-onset suicidal ideation during the COVID-19 pandemic	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Affective Disorders	6. 最初と最後の頁 89 ~ 95
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jad.2021.03.028	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Koohsari Mohammad Javad, Yasunaga Akitomo, Shibata Ai, Ishii Kaori, Miyawaki Rina, Araki Kuniko, Nakaya Tomoki, Hanibuchi Tomoya, McCormack Gavin R., Oka Koichiro	4. 巻 8
2. 論文標題 Dog ownership, dog walking, and social capital	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Humanities and Social Sciences Communications	6. 最初と最後の頁 126 ~ 126
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1057/s41599-021-00804-y	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 山内昌和	4. 巻 77
2. 論文標題 大阪市における性的マイノリティの空間分布	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 人口問題研究	6. 最初と最後の頁 185 ~ 205
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hanibuchi Tomoya, Yabe Naoto, Nakaya Tomoki	4. 巻 21
2. 論文標題 Who is staying home and who is not? Demographic, socioeconomic, and geographic differences in time spent outside the home during the COVID-19 outbreak in Japan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Preventive Medicine Reports	6. 最初と最後の頁 101306 ~ 101306
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.pmedr.2020.101306	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Machida Masaki, Nakamura Itaru, Saito Reiko, Nakaya Tomoki, Hanibuchi Tomoya, Takamiya Tomoko, Odagiri Yuko, Fukushima Noritoshi, Kikuchi Hiroyuki, Amagasa Shiho, Kojima Takako, Watanabe Hidehiro, Inoue Shigeru	4. 巻 Advance online publication
2. 論文標題 How frequently do ordinary citizens practice hand hygiene at appropriate moments during the COVID-19 pandemic in Japan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Japanese Journal of Infectious Diseases	6. 最初と最後の頁 未定
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.7883/yoken.JJID.2020.631	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Machida Masaki, Nakamura Itaru, Kojima Takako, Saito Reiko, Nakaya Tomoki, Hanibuchi Tomoya, Takamiya Tomoko, Odagiri Yuko, Fukushima Noritoshi, Kikuchi Hiroyuki, Amagasa Shiho, Watanabe Hidehiro, Inoue Shigeru	4. 巻 9
2. 論文標題 Acceptance of a COVID-19 Vaccine in Japan during the COVID-19 Pandemic	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Vaccines	6. 最初と最後の頁 210 ~ 210
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/vaccines9030210	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 足立 浩基、埴淵 知哉、永田 彰平、天笠 志保、井上 茂、中谷 友樹	4. 巻 Advance online publication
2. 論文標題 iPhoneのヘルスケアアプリとインターネット調査を用いた歩数計測の新しい方法の開発：COVID-19流行に対する緊急事態宣言前後の歩数変化調査を事例に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 運動疫学研究	6. 最初と最後の頁 未定
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24804/ree.2018	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山本涼子、埴淵知哉、中谷友樹、山内昌和	4. 巻 16
2. 論文標題 国勢調査の「不詳」増加がもたらす統計地図の歪みの可視化	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 E-journal GEO	6. 最初と最後の頁 1~14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4157/ejgeo.16.1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Li Yuanying, Yatsuya Hiroshi, Hanibuchi Tomoya, Ota Atsuhiko, Naito Hisao, Otsuka Rei, Murata Chiyo, Hirakawa Yoshihisa, Chiang Chifa, Uemura Mayu, Tamakoshi Koji, Aoyama Atsuko	4. 巻 17
2. 論文標題 Positive Association of Physical Activity with Both Objective and Perceived Measures of the Neighborhood Environment among Older Adults: The Aichi Workers' Cohort Study	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 International Journal of Environmental Research and Public Health	6. 最初と最後の頁 7971~7971
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/ijerph17217971	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Koohsari Mohammad Javad, Shibata Ai, Ishii Kaori, Kurosawa Sayaka, Yasunaga Akitomo, Hanibuchi Tomoya, Nakaya Tomoki, McCormack Gavin R., Oka Koichiro	4. 巻 10
2. 論文標題 Dog ownership and adults' objectively-assessed sedentary behaviour and physical activity	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 17487
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-020-74365-6	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する



1. 著者名 Koohsari Mohammad Javad, Shibata Ai, Ishii Kaori, Kurosawa Sayaka, Yasunaga Akitomo, Hanibuchi Tomoya, Nakaya Tomoki, Mavoia Suzanne, McCormack Gavin R., Oka Koichiro	4. 巻 66
2. 論文標題 Built environment correlates of objectively-measured sedentary behaviours in densely-populated areas	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Health & Place	6. 最初と最後の頁 102447 ~ 102447
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.healthplace.2020.102447	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Nagata Shohei, Nakaya Tomoki, Hanibuchi Tomoya, Amagasa Shiho, Kikuchi Hiroyuki, Inoue Shigeru	4. 巻 66
2. 論文標題 Objective scoring of streetscape walkability related to leisure walking: Statistical modeling approach with semantic segmentation of Google Street View images	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Health & Place	6. 最初と最後の頁 102428 ~ 102428
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.healthplace.2020.102428	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Machida Masaki, Nakamura Itaru, Saito Reiko, Nakaya Tomoki, Hanibuchi Tomoya, Takamiya Tomoko, Odagiri Yuko, Fukushima Noritoshi, Kikuchi Hiroyuki, Amagasa Shiho, Kojima Takako, Watanabe Hidehiro, Inoue Shigeru	4. 巻 17
2. 論文標題 Incorrect Use of Face Masks during the Current COVID-19 Pandemic among the General Public in Japan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 International Journal of Environmental Research and Public Health	6. 最初と最後の頁 6484 ~ 6484
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/ijerph17186484	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hanibuchi Tomoya, Yamauchi Masakazu	4. 巻 10
2. 論文標題 Central Tokyo 's Low Response Rate to the 2015 Population Census and Its Related Factors	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 SAGE Open	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/2158244020963080	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Machida Masaki, Nakamura Itaru, Saito Reiko, Nakaya Tomoki, Hanibuchi Tomoya, Takamiya Tomoko, Odagiri Yuko, Fukushima Noritoshi, Kikuchi Hiroyuki, Amagasa Shiho, Kojima Takako, Watanabe Hidehiro, Inoue Shigeru	4. 巻 96
2. 論文標題 Changes in implementation of personal protective measures by ordinary Japanese citizens: A longitudinal study from the early phase to the community transmission phase of the COVID-19 outbreak	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 International Journal of Infectious Diseases	6. 最初と最後の頁 371 ~ 375
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.ijid.2020.05.039	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Koohsari Mohammad Javad, Nakaya Tomoki, Hanibuchi Tomoya, Shibata Ai, Ishii Kaori, Sugiyama Takemi, Owen Neville, Oka Koichiro	4. 巻 9
2. 論文標題 Local Area Walkability and Socioeconomic Disparities of Cardiovascular Disease Mortality in Japan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of the American Heart Association	6. 最初と最後の頁 e016152
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1161/JAHA.119.016152	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Hanibuchi Tomoya, Nakaya Tomoki	4. 巻 18
2. 論文標題 Associations of neighborhood socioeconomic conditions with self-rated health, mental distress, and health behaviors: A nationwide cross-sectional study in Japan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Preventive Medicine Reports	6. 最初と最後の頁 101075 ~ 101075
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.pmedr.2020.101075	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Machida Masaki, Nakamura Itaru, Saito Reiko, Nakaya Tomoki, Hanibuchi Tomoya, Takamiya Tomoko, Odagiri Yuko, Fukushima Noritoshi, Kikuchi Hiroyuki, Kojima Takako, Watanabe Hidehiro, Inoue Shigeru	4. 巻 94
2. 論文標題 Adoption of personal protective measures by ordinary citizens during the COVID-19 outbreak in Japan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 International Journal of Infectious Diseases	6. 最初と最後の頁 139 ~ 144
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.ijid.2020.04.014	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 埴淵 知哉, 中谷友樹, 上杉昌也, 井上 茂	4. 巻 93
2. 論文標題 インターネット調査と系統的社會觀察による地理的マルチレベルデータの構築	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 地理学評論 Series A	6. 最初と最後の頁 173 - 192
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 埴淵知哉, 山本涼子, 中谷友樹, 山内昌和	4. 巻 65
2. 論文標題 「不詳」の増加は統計地図をどう歪めるのか? - 開始100年を迎える国勢調査の困難 -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 地理	6. 最初と最後の頁 56 - 61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松田茂樹, 佐々木尚之	4. 巻 32
2. 論文標題 アジア諸国における教育と少子化の関連についての理論的背景	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 家族社会学研究	6. 最初と最後の頁 169 ~ 172
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Matsuda, Shigeki and Sasaki, Takayuki	4. 巻 45
2. 論文標題 Deteriorating Employment and Marriage Decline in Japan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Comparative Population Studies	6. 最初と最後の頁 395 ~ 416
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中谷友樹, 埴淵知哉	4. 巻 33
2. 論文標題 ウォーカビリティと健康な街	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本不動産学会誌	6. 最初と最後の頁 73-78
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 埴淵 知哉	4. 巻 12
2. 論文標題 コワーキングスペースの地方展開に関する一考察	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 国際教養学部論叢	6. 最初と最後の頁 17-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 永田彰平, 中谷友樹, 埴淵知哉	4. 巻 28
2. 論文標題 機械学習に基づいたストリートレベルのウォーカビリティ評価 Google Street View画像を対象として	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 地理情報システム学会講演論文集	6. 最初と最後の頁 1-4
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hanibuchi Tomoya, Nakaya Tomoki, Inoue Shigeru	4. 巻 59
2. 論文標題 Virtual audits of streetscapes by crowdworkers	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Health & Place	6. 最初と最後の頁 102203 ~ 102203
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.healthplace.2019.102203	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Amagasa Shiho, Inoue Shigeru, Fukushima Noritoshi, Kikuchi Hiroyuki, Nakaya Tomoki, Hanibuchi Tomoya, Sallis James F, Owen Neville	4. 巻 19
2. 論文標題 Associations of neighborhood walkability with intensity and bout specific physical activity and sedentary behavior of older adults in Japan	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Geriatrics & Gerontology International	6. 最初と最後の頁 861 ~ 867
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/ggi.13730	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Koohsari Mohammad Javad, McCormack Gavin R., Nakaya Tomoki, Shibata Ai, Ishii Kaori, Yasunaga Akitomo, Hanibuchi Tomoya, Oka Koichiro	4. 巻 87
2. 論文標題 Urban design and Japanese older adults' depressive symptoms	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Cities	6. 最初と最後の頁 166 ~ 173
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.cities.2018.09.020	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Koohsari Mohammad Javad, Cole Rachel, Oka Koichiro, Shibata Ai, Yasunaga Akitomo, Hanibuchi Tomoya, Owen Neville, Sugiyama Takemi	4. 巻 Article first published online
2. 論文標題 Associations of built environment attributes with bicycle use for transport	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Environment and Planning B: Urban Analytics and City Science	6. 最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/2399808319845006	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 松田 茂樹	4. 巻 55
2. 論文標題 ヴィネット調査を用いた子育て支援策が出生行動に与える効果の研究	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 人口学研究	6. 最初と最後の頁 41 ~ 53
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24454/jps.1902004	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Koohsari Mohammad Javad, Sugiyama Takemi, Shibata Ai, Ishii Kaori, Hanibuchi Tomoya, Liao Yung, Owen Neville, Oka Koichiro	4. 巻 74
2. 論文標題 Walk Score? and Japanese adults' physically-active and sedentary behaviors	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Cities	6. 最初と最後の頁 151 ~ 155
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.cities.2017.11.016	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Koohsari Mohammad Javad, Oka Koichiro, Shibata Ai, Liao Yung, Hanibuchi Tomoya, Owen Neville, Sugiyama Takemi	4. 巻 15
2. 論文標題 Associations of neighbourhood walkability indices with weight gain	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 International Journal of Behavioral Nutrition and Physical Activity	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s12966-018-0668-2	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Kikuchi Hiroyuki, Nakaya Tomoki, Hanibuchi Tomoya, Fukushima Noritoshi, Amagasa Shiho, Oka Koichiro, Sallis James, Inoue Shigeru	4. 巻 15
2. 論文標題 Objectively Measured Neighborhood Walkability and Change in Physical Activity in Older Japanese Adults: A Five-Year Cohort Study	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 International Journal of Environmental Research and Public Health	6. 最初と最後の頁 1814 ~ 1814
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/ijerph15091814	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Li Yuanying, Yatsuya Hiroshi, Hanibuchi Tomoya, Hirakawa Yoshihisa, Ota Atsuhiko, Uemura Mayu, Chiang Chifa, Otsuka Rei, Murata Chiyo, Tamakoshi Koji, Toyoshima Hideaki, Aoyama Atsuko	4. 巻 11
2. 論文標題 The association between objective measures of residence and worksite neighborhood environment, and self-reported leisure-time physical activities: The Aichi Workers' Cohort Study	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Preventive Medicine Reports	6. 最初と最後の頁 282 ~ 289
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.pmedr.2018.07.007	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Koohsari Mohammad Javad, Kaczynski Andrew T., Nakaya Tomoki, Shibata Ai, Ishii Kaori, Yasunaga Akitomo, Stowe Ellen W., Hanibuchi Tomoya, Oka Koichiro	4. 巻 Epub ahead of print
2. 論文標題 Walkable Urban Design Attributes and Japanese Older Adults' Body Mass Index: Mediation Effects of Physical Activity and Sedentary Behavior	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 American Journal of Health Promotion	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/0890117118814385	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 埴淵 知哉, 山内 昌和	4. 巻 14
2. 論文標題 国勢調査「不詳」発生の関連要因 インターネット調査を用いた未提出者の分析	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 E-journal GEO	6. 最初と最後の頁 14 ~ 29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4157/ejgeo.14.14	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 埴淵知哉・中谷友樹・村中亮夫・花岡和聖	4. 巻 91
2. 論文標題 国勢調査小地域集計データにおける「不詳」分布の地理的特徴	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 地理学評論	6. 最初と最後の頁 97-113
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中谷友樹・米島万有子・崔明姫	4. 巻 11
2. 論文標題 全国調査からみた文化財保有社寺における犯罪被害	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 歴史都市防災論文集	6. 最初と最後の頁 25-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計38件（うち招待講演 4件 / うち国際学会 4件）

1. 発表者名 芥川穂高, 矢部直人, 埴淵知哉
2. 発表標題 地理的な要因に着目した食品eコマース利用者の特徴
3. 学会等名 日本地理学会2022年春季学術大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 谷本 涼, 埴淵知哉
2. 発表標題 アクセシビリティの総体的感覚とウォークアビリティ指標の関係
3. 学会等名 日本地理学会2022年春季学術大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 藤 媛媛, 中谷友樹, 埴淵知哉
2. 発表標題 在日外国人の集住と社会的統合: インターネット調査の結果を用いて
3. 学会等名 日本地理学会2022年春季学術大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 伊藤ゆり, 三浦 茜, 片岡葵, 西岡大輔, 福井敬祐, 本庄かおり, 玉置淳子, 埴淵知哉, 中谷友樹
2. 発表標題 住民による自主的な運動グループ拠点数・活動頻度と要介護認定割合の関係
3. 学会等名 第80回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2021年



1. 発表者名 横山由奈, 埴淵知哉, 磯田弦, 松田茂樹
2. 発表標題 還流移動希望の要因 出身地の特徴や移住政策に着目して
3. 学会等名 2021年度東北地理学会秋季学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 渡邊怜央, 埴淵知哉, 中谷友樹
2. 発表標題 近世城下町を基盤とする都市の街路網の形態的特徴
3. 学会等名 第30回地理情報システム学会研究発表大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 清水 遼, 中谷友樹, 埴淵知哉, 磯田 弦
2. 発表標題 近隣の「形」は居住者の地域評価を高めるか? 都市形態指標を用いた居住地域分類と生活様式の関係
3. 学会等名 第30回地理情報システム学会研究発表大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 永田 彰平, 足立浩基, 埴淵知哉, 天笠志保, 井上 茂, 中谷友樹
2. 発表標題 緊急事態宣言に伴う身体活動の変化: 新型コロナウイルス感染症第一波を対象として
3. 学会等名 東北地理学会 2021年度 春季学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 埴淵知哉, 藤媛媛, 山内昌和
2. 発表標題 2020年国勢調査の「調査困難者」に関する予備的検討
3. 学会等名 東北地理学会 2021年度 春季学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 松田茂樹
2. 発表標題 子育て支援の拡充と増税が出生意欲に与える効果 - ヴィネット調査を用いた要因研究
3. 学会等名 日本人口学会第73回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 松田茂樹
2. 発表標題 大都市居住者のUターン意向の規定要因
3. 学会等名 日本人口学会中部部会報告
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 埴淵知哉
2. 発表標題 大規模オンラインサーベイによる地理的マルチレベルデータの構築(1) 調査方法と調査項目に関する概要
3. 学会等名 日本地理学会2021年春季学術大会(オンライン開催)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 谷本 涼, 埴淵知哉
2. 発表標題 大規模オンラインサーベイによる地理的マルチレベルデータの構築(2) 集計結果の概要
3. 学会等名 日本地理学会2021年春季学術大会(オンライン開催)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山本涼子, 埴淵知哉, 山内昌和
2. 発表標題 2020年国勢調査の回答状況における都市-農村格差
3. 学会等名 日本地理学会2021年春季学術大会(オンライン開催)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 矢部直人, 埴淵知哉, 永田彰平, 中谷友樹
2. 発表標題 緊急事態宣言前後の外出行動とインターネット利用の関係
3. 学会等名 日本地理学会2020年秋季学術大会(オンライン開催)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 埴淵知哉
2. 発表標題 「距離をとる」時代の社会/地域調査
3. 学会等名 日本地理学会2020年秋季学術大会(オンライン開催)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 足立浩基, 埴淵知哉, 永田彰平, 天笠志保, 井上茂, 中谷友樹
2. 発表標題 緊急事態宣言と歩数の地域的变化 - iPhoneのヘルスケアアプリを利用した歩数調査法を用いて -
3. 学会等名 2020年度東北地理学会秋季学術大会 (オンライン開催)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 埴淵知哉
2. 発表標題 社会関係資本論からみた地方創生の課題
3. 学会等名 日本公共政策学会2020年度研究大会 (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 松田茂樹
2. 発表標題 追加出生意欲の時系列変化とその背景
3. 学会等名 第30回日本家族社会学会大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 松田茂樹
2. 発表標題 夫と妻の就業状態が出生に与える効果
3. 学会等名 第72回日本人口学会大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 松田茂樹・佐々木尚之・梁凌詩ナンシー
2. 発表標題 新型コロナウイルスの感染拡大が出生意欲に与えた影響
3. 学会等名 第70回数理社会学会大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 上杉昌也, 埴淵知哉
2. 発表標題 社会的不平等に関する意識と近隣効果
3. 学会等名 2019年人文地理学会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 永田彰平, 中谷友樹, 埴淵知哉
2. 発表標題 機械学習に基づいたストリートレベルのウォークビリティ評価 Google Street View画像を対象として
3. 学会等名 第28回地理情報システム学会研究発表大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Nagata S, Nakaya T, Hanibuchi T
2. 発表標題 Evaluation of neighborhood walkability using Google Street View and deep learning approach
3. 学会等名 18th International Medical Geography Symposium (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Nakaya T, Hanibuchi T, Tabuchi T, Inoue S
2. 発表標題 Which way is healthier: An analysis of the relationship between residential move and changes in mover's health within the Tokyo metropolitan area, Japan
3. 学会等名 18th International Medical Geography Symposium (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hanibuchi T, Nakaya T, Inoue S
2. 発表標題 Auditing neighborhoods virtually by crowdworkers
3. 学会等名 18th International Medical Geography Symposium (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 矢部直人・岡野雄気
2. 発表標題 訪日外国人の地方訪問に関する縦断データの分析
3. 学会等名 2019年人文地理学会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 埴淵知哉
2. 発表標題 社会関係資本の地域分析
3. 学会等名 日本大学大学院法学研究科大学院特別講義 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 埴淵知哉・山内昌和
2. 発表標題 国勢調査における「不詳」の関連要因
3. 学会等名 日本地理学会2018年秋季学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中谷友樹・埴淵知哉・田淵貴大・井上茂
2. 発表標題 居住地移動に伴う近隣環境変化と自覚的健康度・健康行動の変化
3. 学会等名 第77回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 埴淵知哉・中谷友樹・井上 茂
2. 発表標題 Google Street Viewを用いた系統的社会観察による近隣ウォーカビリティの測定
3. 学会等名 第77回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 埴淵知哉
2. 発表標題 健康地理学からみる街づくりの展望
3. 学会等名 公開ワークショップ「地方における若手科学者を中心とした学術活動の活性化 - 地域を豊かにする学術：新国富を中心に学術の街づくりへの貢献を考える」（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松田茂樹
2. 発表標題 子育て支援策が子どもをもつ意欲に与える効果：ヴィネット調査データを用いたマルチレベル分析
3. 学会等名 日本人口学会第70回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中谷友樹
2. 発表標題 運動の地理疫学とGIS
3. 学会等名 第21回日本運動疫学会学術総会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中谷友樹
2. 発表標題 疫学における小地域社会経済指標の活用と課題
3. 学会等名 日本疫学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 埴淵知哉・中谷友樹
2. 発表標題 近隣の社会的断片化指標 ソーシャル・キャピタルおよび健康指標との関連について
3. 学会等名 第76回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2017年



1. 発表者名 Tomoya Hanibuchi, Tomoki Nakaya, Akio Muranaka, Kazumasa Hanaoka
2. 発表標題 The challenge of creating census-based neighborhood measures: Mapping "not reported" cases of the 2010 population census in Japan
3. 学会等名 AAG 2017 annual meeting (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 中谷友樹・米島万有子・崔明姫
2. 発表標題 全国調査からみた文化財保有社寺における犯罪被害
3. 学会等名 第11回歴史都市防災シンポジウム
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 埴淵 知哉	4. 発行年 2022年
2. 出版社 古今書院	5. 総ページ数 192
3. 書名 社会調査で描く日本の大都市	

1. 著者名 松田 茂樹	4. 発行年 2021年
2. 出版社 学文社	5. 総ページ数 283
3. 書名 〔続〕少子化論 - 出生率回復と〈自由な社会〉	

1. 著者名 埴淵 知哉、村中 亮夫	4. 発行年 2018年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 176
3. 書名 地域と統計: 調査困難時代のインターネット調査	

1. 著者名 埴淵知哉 (編著)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 176
3. 書名 社会関係資本の地域分析	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	村中 亮夫  (Muranaka Akio)  (10434713)	立命館大学・文学部・准教授   (34315)	
研究分担者	矢部 直人  (Yabe Naoto)  (10534068)	東京都立大学・都市環境科学研究科・准教授   (22604)	
研究分担者	中谷 友樹  (Nakaya Tomoki)  (20298722)	東北大学・環境科学研究科・教授   (11301)	

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	保田 時男 (Yasuda Tokio) (70388388)	関西大学・社会学部・教授  (34416)	
研究分担者	山内 昌和 (Yamauchi Masakazu) (90415828)	早稲田大学・教育・総合科学学術院・准教授  (32689)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	上杉 昌也 (Uesugi Masaya)		
研究協力者	谷本 涼 (Tanimoto Ryo)		
研究協力者	野崎 華世 (Nozaki Kayo)		
研究協力者	松田 茂樹 (Matsuda Shigeki)		
研究協力者	山本 涼子 (Yamamoto Ryoko)		

## 7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------